

浅間山山行記録



目的地	浅間山	期 日	平成23年6月12日(日):曇りのち晴れ
山人	笠原正雄・澄子	特 記	変化に富んだ登路。途中から晴れて素晴らしい景色を楽しんだ。

地名	時刻	記 事
与板発	5:30	高速利用、走行距離235km。車坂峠8:35着、駐車場はほぼ満車。
車坂峠歩き出し	8:45	表コースに行く。明るい感じの樹林帯の緩登。コイワカガミ、ゴゼンタチバナ。
台地で立ち休み	9:15	一度鞍部に降りて登り返す。重ね着を脱ぐ。シャクナゲが満開、ツガザクラも混じる。この先で赤い実のような花をつけたコヨウラクツツジの低木を見る。
中コースと合流	9:50	樹林帯が切れてトーミの頭が見えて来た。避難シェルターを経て右からの中コースと合わせる。この後、右斜面が切れ落ちた火山礫地の登りとなる。
トーミの頭	9:55	蛇骨岳、仏岩は見える。ガスの中に僅か湯の平を見下ろせたが、浅間山は全く見えない。少し下を覗いた程度で先へ進む。すぐに草すべりからの上り道がある。
ガスの中に浅間山	9:57	ガスの流れで一瞬浅間山が見えたが、また隠れてしまった。
黒斑山	10:10	数人が腰を下ろしていた。展望も無く通過。進むと左斜面にミネズオウが咲く。
蛇骨岳	10:40	ガスが上がって浅間山が見えてきた。前掛山への稜線を歩く人影が見える。湯の平も見下ろせる。左に水ノ塔・籠ノ塔山。若者男女3人が早いランチを始めた。
仏岩三角点	10:55	第1外輪の火山道。逆コースで歩く者も居る。通過する。
Jバンド下降	11:10	鋸岳ピークは下降点の少し先である。ここでランチかと思っていたが、Jバンドの急降下は要注意だ。ピークには行かず下り始める。
ランチ	11:25~12:15	平らに下りて広場でランチ。黒斑過ぎで追越された男が休んで居た。Jバンドの下りはキツカッタと言っていた。冷やしカレーうどん。少しひんやりする。
喬木帯となる		ここに入ると風も無く暖くなる。
賽の河原分岐	12:25	左折する。唐松の幼木が多い。まもなく火山礫地の登りとなるが、団体等結構大勢が下りてくる。道脇に更にミネズオウが多く咲く。コメバツガザクラを撮る。火山裾は遮るものが無い。雲が混じるが下界を見下ろせ、田代湖も分かる。
右折して第2外輪稜線へ	pm 1:25	直進は進入禁止。二つの避難シェルターを過ぎれば稜線歩きとなり、風が強くなって来た。殆んどの人が登頂を済ませたようで静かになった。
前掛山	1:45~1:55	浅間山の三角点は外輪の向こう側になるが、この先は進入禁止で、入った場合は法律で罰せられると記されていた。三角点山頂が見える。そこへ向かうブルドーザー道が見える。年配男女4人隊が居たのみ。写真を撮って貰う。一人が稜線上をこちらに向かっている。雲はあるが、まあまあ見下ろせる。
賽の河原分岐	2:35	樹林帯に戻り暖かくなって重ね着を脱ぐ。ヤマザクラが残っていた。広々した樹林帯は明るく、気分良く歩ける。
湯の平口	2:50	直進すれば火山館、浅間山荘方面だ。90度右折して草すべり。ここでは、はっきりと硫黄臭を感じる。正面に黒斑からトーミの頭が壁となって見える。
登り返し		標高差300mの登り。草付き道を左右に斜登高するが、なかなかきつい。途中で浅間山を振り返る。湯の平の緑の広がりもいい景色だ。最後は岩登りとなるがなかなか第2外輪には着かない。
トーミの頭	3:50	ようやく稜線に上がり、もう一度浅間山を見ると、薄く噴煙らしい雲が見えた。
中コースへ	3:55	樹林帯を下る。所により掘られた道はぬかるんでいる。
車坂峠駐車場	4:45着	終点間近で裏コースとあわせ、しばらくして車道に出て歩行終了。来た道に戻らずに、群馬県側を下る。途中未舗装の林道を通る。

6月20日から高速料金の休日1,000円の割引制度が廃止になる。最後に遠出をと思ったが、この時期天候が不順だ。天気予報を見ながら候補を挙げ、この山にした。2年前の7月に黒斑山に登っているが、ガスで全く見えなかった。また湯の平へ降りる予定は無かったものの噴火警戒レベル2でその先の前掛山は入山禁止であった。昨年4月に警戒レベル1となり、そこまで行けるようになった。コースタイム約8時間となっていて、予定が窮屈であったため、昼食と山頂以外は立止まる程度とし、少しピッチを上げて歩いた。途中まで展望が利かず、また見えないのではと思ったが、途中から晴れに向かい、容姿端麗な山容を眺めることが出来た。一方、花が多かったことは想像していなかった。